

踊り民謡など多様な余興で会場を盛り上げ、県外からの出席者をもてなした。なお次年度の当番県は鹿児島で平成29年9月3日、鹿児島市の城山観光ホテルで開催される予定。

の認識と一致しているかどうかで判断されることを知ってほしい」と啓発した。

三室久枝・消費生活相談員は「悪質商法の手法と対策」と題し、「事業者契約や通信販売にはクーリングオフ制度は適用されない。また、店舗の

「二刀流」で大車輪の活躍をみせる大谷翔平投手が先発。1安打15奪三振の完封劇で4回にレアードのホームランであげた1点を守り切った。

これにより最大11・5ゲーム差があったベナン・ドレースを制し優勝が決まった。その瞬間、スクリーンを見詰める従業員

修理をするときは必ず相見積もりを取る」と「光通信の乗り換え勧誘では既存の契約を解除する費用や、新たな工事が必要になることもあるので即断しない。ホーム

まの熱いご声援のおかげで、2012年以來、4年ぶりのパシフィックリーグ制覇を成し遂げるこ

そして、最後まであきらめずに戦い抜き、11・5ゲーム差をほぼ返してリーグ優勝という素晴らしい結果をもたらしてく

ページ作成や節電器の販売でもトラブルが増えている」と紹介。加えて「1人で悩まず、消費生活安全センターに相談してほしい」とアドバイスした。

梶田さんに最優秀賞

場とは異なり未知数であり、これからアジアの中でも重要な販売市場にな

っていこうと考えている。正直、現段階ではまだ手探りの状態だが、まずは

一歩踏み出すことにした」とコメントしている。



日本ハムがトップパタートナーとなっているセレッソ大阪は現在、J2リーグで2位に勝ち点差1で3位につけており、J1に自動昇格できる2位以上を目指している。リーグ戦が佳境を迎えたいま、ニッポンハムグループをあげてセレッソ大阪のJ1昇格を後押ししよ

フィリピン法人設立

ミート・コンパニオンが

（株）ミート・コンパニオン（本社＝東京都立川市、阿部昌史社長）はこ

のほど、今後のフィリピンにおける事業展開を見据え、現地法人「MEAT COMPANION PHILIPPINE S.C.O. INC.」（株）ミート・コンパニオン（株）を同国の首都マニラ内マカティ市に設立した。資本金は40万フィリピンペソ（800株）で、フィリピンの

会社法上、現地出資者（出資比率60・0%）、（株）ミート・コンパニオン社（36・0%）、他（4%）の共同出資となる。近年のフィリピンの経済発展は目覚ましく、とくにアジア市場の中でも圧倒的に若年層が多いフィリピン市場では、今後も堅調な経済成長が見込まれており、日本食の人氣も高まっている。同社は日本産和牛の普及と販売拡大などを目的として現地法人を拠点とし、輸

出促進体制を強化させていく。

今後は、同社グループの食肉センター「梅アクリス・ワン和光ミートセンター」でも対フィリピン輸出食肉取扱施設認定取得に向けて取り組み、同社の海外輸出向け和牛ブランド「WAGYU BRAND」「SAMURAI」の輸出とともにブランド認知、拡販に向けて体制整備に努める。

10月には、同社が中心となって組織される首都圏ミートパッカー輸出推進協議会による現地における和牛セミナー勉強会などを予定しており、日本産和牛の情報発信を促進し、輸出拡大に弾みを

つけないと考えた。

阿部社長は「すでにタイでは、2013年に現地法人を設立してからの他関連会社やレストラン事業などへも進出し、事業を拡大しながら軌道に乗りつつある。それに比べてフィリピン市場は、まだ日系企業の進出も少なく、治安の問題や情報不足といった点から日本との距離は近いが、まだ身近な市場とはいえない」

「しかし、肉食文化と富裕層の増加、人口ボーナスへの期待も高く、都市部や観光リゾート地の経済成長を目のあたりにすると、シンカポールや香港といった成熟した市



フィリピン市場に期待を寄せる阿部社長

140余年の歴史を誇る肉の老舗・柿安本店（赤塚保正社長）は9月16日、社員が料理技術を競う「柿安本店料理コンテスト2016」の決勝大会を東京都港区で開催した。

同コンテストは2010年に初開催以来、こと牛・豚・鶏のひき肉（肉の老舗・柿安本店）を問わず社員から幅広いメニューを募って競い合

当日は、7月の1次選

CPPIのジョカスCEOが就任会見を行う

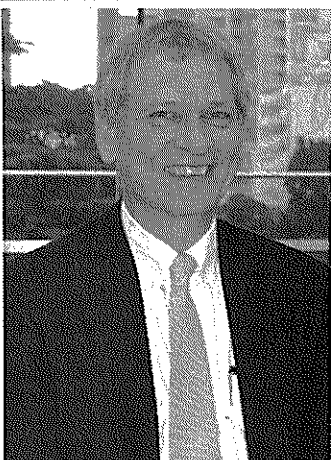
カナダボーク・インタナショナル（CPPI）の新たなプレジデント・CEOに就任したクレック・ジョカス氏が9月20日、野村昇司・日本マーケティングディレクター

各地域での要職を歴任した農務・農産のエキスパート。

同氏はAADC（カナダ農務・農産食品省）でグローバルな仕事を長く

VCPマー

上海事



ジョカス新CEO

「日本に戻ってきて、また仕事をすることができて非常にうれしい。日本とカナダ両国の間には長きにわたるパートナーシップがあり、良好な関係を築いている。カナダボーク品質保証マーク（VCP）は、日本とのビジネスの中でつくりあげら